

あ
い
の

【ひまわり】

Vol.12

2012. 7月発行

Contents

- ・骨粗鬆症外来
- ・外科紹介
- ・就任医師のご紹介
- ・リハビリテーション科だより
- ・ダイバーショナルセラピー

骨粗鬆症外来

骨粗鬆症とは

骨粗鬆症とは、単なる骨の老化ではなく、骨の代謝に異常が生じて、骨の量が少なくなったり、質が悪くなったりして、骨折しやすくなった状態をいいます。

骨粗鬆症による骨折は脆弱性骨折といわれ、脊椎・大腿骨近位部・上腕骨・前腕骨・骨盤・肋骨などが好発部位です。

特に脊椎や大腿骨近位部（頸部）の骨折は寝たきりになりやすく、介護が必要な大きな原因となっています。

これらの骨折を引き起こす骨粗鬆症は、高齢者のみでなく若い人、女性のみでなく男性にも起こる病気です。



整形外科医 楊鴻生

骨粗鬆症の原因と治療

骨粗鬆症患者は全国で現在約1300万人といわれています。そのほとんどは原因のはっきりわからない原発性骨粗鬆症で、主に60歳以上の高齢の方が罹患します。

原因のわかっている骨粗鬆症も最近注目されています。

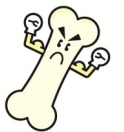
特に生活習慣に伴う骨粗鬆症が注目されており、運動不足による骨粗鬆症や糖尿病などのメタボリック症候群に伴う骨粗鬆症などが話題となっています。ステロイドホルモンや胃薬、ビタミン剤など多くの薬剤の使用に伴う骨粗鬆症も注目されるようになりました。

従来、骨粗鬆症は老化に伴う病気なので、治療する方法がないと諦められ、放置されていました。しかし、最近骨の代謝に直接作用して骨の量を増やし、質を改善させる多くの薬剤が開発され、治療可能な病気として認識されるようになりました。

しっかりと治療を行うことにより、骨密度を10%近く増加させることが可能となり、毎年骨折をしていた患者様が骨折をしなくなり、旅行や趣味に人生の後半を楽しむことができるようになりました。



骨粗鬆症は従来の「老化によるあきらめなければいけない病気」から、「予防や治療が可能で希望の持てる疾患」へと変身してきたと言えます。



当院の治療

藍野病院ではこのたび、骨粗鬆症を早期に発見、診断して、予防や治療を一貫して行う骨粗鬆症外来を設置することになりました。骨粗鬆症外来では、精度の高い骨密度測定機（DXA QDR4500）を用いて、精密に骨密度を測定、評価します。

また骨代謝異常を検出するために、積極的に骨代謝マーカーの測定を行い、骨密度の状態と骨代謝マーカーの状態から総合的に骨粗鬆症を診断して、もっとも適した治療を実施します。

骨粗鬆症を改善するためには、4~5年間薬物療法を継続する必要があります。患者様のデータベースを作成して、長期にわたり定期的な診察と投薬を継続していくことを目的としています。

毎週土曜日（午前）整形外来にて骨粗鬆症外来を行っていますので

お気軽にご相談ください。

リハビリテーション科 だより

～言語聴覚療法～

言語聴覚療法 (ST) は、主にコミュニケーション障害・高次脳機能障害及び嚥下障害の患者様を対象としています。コミュニケーション障害の原因は多岐にわたります。脳卒中後の失語症や構音障害、パーキンソン病やALSなどの神経系の難病による発声・発語障害、癌の術後や外傷による後遺症もあります。また、認知症でも言語機能や高次脳機能は低下していくので、最近では認知症の患者様が非常に多くなっています。患者様の能力や生活する上での必要性に応じて、「話す」ことだけでなく、「聴く」「読む」「書く」ことも指導しています。時には、文字盤や会話ノート、PC機器などのコミュニケーションツールの導入を行うこともあります。

また、当院では以前から嚥下障害のリハビリに力を入れてきました。嚥下造影検査 (VF) を年間約80~90件行い、評価や食事形態・食べ方の指導を行います。現在は耳鼻咽喉科とも連携し、より詳細に機能評価ができるようになりました。今後もSTでは、「伝えること」「食べること」を中心に、患者さんの残された可能性を探しながら、QOL (生活の質) 向上のためのお手伝いをしていきたいと考えています。



言語聴覚療法の様子



ダイバーショナルセラピー NO.10

～ロボットセラピー③～

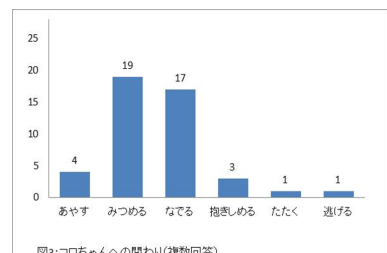
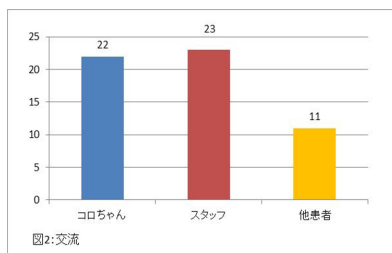
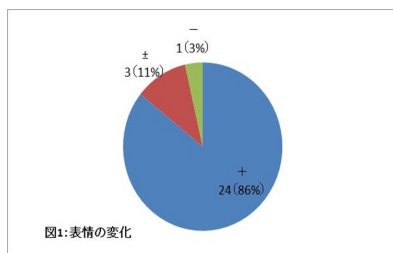
今回は、当院入院中の認知症高齢者28名 (平均年齢80.6±9.5歳、男性4名：女性24名) に対して初めて「コロちゃん」を提示した際の反応をまとめました。

「コロちゃん」を提示する前後での表情の変化について、笑顔がみられたなど表情が良くなったものを「+」、表情の変化がみられなかったものを「±」、表情が悪くなったものを「-」としました。結果は図1の通りであり、86%の方の表情がほころぶ結果となりました。次に、交流・語りかけについてみてみますと (図2)、コロちゃんに語りかけたり、スタッフに話しかける人が大半でしたが、11名の方がコロちゃんを介して他患者さんとのコミュニケーションをとっておられました。中には「この子かわいいよ、見てみる?」とお向かいの患者さんにすすめたり、お隣の方と一緒にコロちゃんを覗き込んで笑ったりする様子が見られました。コロちゃんへの関わり方は図3に示すとおりであり、みつめたり、あやす動作が多くみられました。柔らかな毛で包まれたコロちゃんは抱きしめてもとても気持ちが良いのですが、重さが4キロもあるため以前ご紹介しました赤ちゃん人形よりは、抱っこしにくかったようです。中にはコロちゃんを「たたく」方も1名おられました。この方はコロちゃんを見て表情が悪くなった方なのですが、「こんなけつたいなもん! 持ってこられても困る! どっかもって行って!!」と不機嫌にさせてしまいました。以前、犬を飼っていたとの情報もあり、動物はお好きかと思ってお渡ししてみましたが、その時の気分や精神状態などで反応が変わってくるものと思います。



コロちゃん

さまざまな非薬物療法がありますが、どの療法も万人に有効というものはなく、やはりおひとりおひとりの趣味や趣向、関心のあることをアセスメントしながら提供していくこと、そしてその人らしく過ごせる時間を提供することが我々の役目だと感じています。



お問い合わせ

総合受付

TEL: 072-627-7611 (代)

FAX: 072-627-3627

入院のご相談は
「地域医療連携室」まで

お待ちしております。
編集委員一同

季刊誌「あいの」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。今回は「骨粗鬆症外来」について特集を組みました。毎週土曜日の午前に診療を行っております。正確にご自身の骨の評価を知りたい方、どうぞ診察にお越しください。

今後も、皆さまに役立つ情報をお伝えできるようお願いを今後の特集に生かしていきたいと考えておりますので、ご感想・ご意見・ご希望などありましたら、お気軽にお問い合わせください。

編集後記